

平成11年東京の河川63箇所中、汚れている川ワースト10に八王子が6箇所入っていて、ワースト1は南浅川だった。これを改善するため下水道整備を全力で行った結果、21年度水質調査ではすべてでワースト10から外れ、逆に鮎が住める水質となった。

◎馬場市長
 皆、あさかわというが、我々は「あさがわ」と言った。あざとは、荒れている、急流という表れ。あさがわに面した方々はわりと激しい方が多かったし、大物がいるという感じがする。土方歳三の激しさはあさがわが作ったんじゃないかと思ったりしている。

清流条例をはるか前に作り、今ようやく具現化してきたと感じている。

駒形の渡し舟、水辺の楽校。かつて浅川サバイバルレースもあった。川は多くの住民をつなぎとめる役割がある。八王子市と連携し、特に子どもについて事業が出来ればいい。

◎酒 巻
 (毎年八王子市長と子どもが対話する子どもミーティングで、サポート役で活躍)

「浅川で釣りをした」「4日間連続浅川で遊んだ」など、今の子どもたちも浅川がすぐ身近な存在にある。浅川の機能は時代ごとに変わっていくが、いつの時代でも「住民の身近な存在である」ということは、変わってほしくないと思う。

◎清 水
 (滝合小水辺の楽校で活動)

浅川の中で遊ぶことは非常に記憶に残る。におい、温度など、非常に五感を刺激する。学習活動で浅川を利用するが、川に3つの役割がある。①教材との出会いの場②学習の調査研究対象③学習したことを

一般的なものとして応用する場。

◎小倉教授
 浅川で水質調査をはじめ、30年以上経過したが、水質は大幅に改善された。下水道の整備のほか、市民の皆様の努力の結果である。

次に未来の浅川、それに向けての取り組みについてうかがう。

◎清 水
 未来の浅川は、親、じいちゃんばあちゃん、孫、この3世代が同時に集まれる川。子どもも親と一緒に楽しめる。

◎酒 巻
 イベントは浅川沿いでやる、ただ散歩に行くなど住民が自発的に浅川に行くことで人と人がつながるきっかけになる。

◎馬場市長
 これからのまちは歩くことが基本。川の駅構想は浅川沿いに1つ、多摩川沿いに1つ。水量確保、水質浄化等お互い定期チェックし、情報交換したい。

両市子どもたちが授業、イベントで浅川を通じて交流し、発表しあう場をつくる。

◎黒須市長
 下流の日野と上流の八王子が一体感を持っていくということが大切。

浅川には絶滅危惧種の珍しい魚、奥入瀬みたいな渓谷や独特の景観がある。多くの人に知ってもらいたい。

来年、市役所そばに子どもが川で遊べる場を作る。

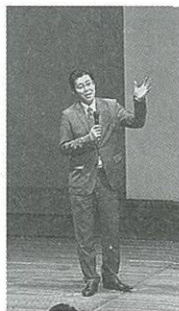
会場からの提案

・台風により、高尾山の倒木が多い。山が荒れ、木が育たない。それを改善する必要がある。山をきれいに守っていかないと川は良くなる。

・八王子の上流部の杉林は、広葉樹林に代えるような仕掛け、努力を両市、両市民で作っていききたい、つくってほしい。

**基調講演をされた
肉藤正彦氏のコメント**

・日ごろ、川を見ることがすごく重要。
 ・もう少しがんばれば、川で遊んだ世代が増えてくる。
 取り組みの継続が重要。



**子どもたち、
両市長による共同提言**

〈自然〉みんなで浅川の自然や景観を大切に未来につなげます
 〈人〉人と人のふれあいの輪を広げ、ふるさとの浅川を育てます
 〈まち〉浅川の魅力を活かして、元気なまちをつくります



〈まち〉浅川の魅力を活かして、元気なまちをつくります